令和4年度　後期日程　入学者選抜学力検査問題
公共政策学部　小論文　出題意図

一

問一

問一では、問題文の基礎となる外発的インセンティブと内発的動機づけの関係について理解し、これを適切に説明できているかを問う問題である。すなわち、文章読解力とともに、文字数を制限することによって、端的に表現しうる文章作成力を確認したい。

外発的なインセンティブと内発的動機づけの境界の曖昧さを、問題文中の「自発性」というキーワード等から説明できていることがポイントとなろう。

問二

問二では、問題文の理解を前提として、自ら課題を設定し「人間行動をコントロールする効果的な規制のあり方およびこれを検討する際の留意点」について考えてもらう問題である。したがって、問二では、文章読解力、論理的な思考力、文章作成力を確認するとともに、社会問題に関心をもちこれを解決するための柔軟な発想力などを有するかをみることになる。

本文からの示唆を踏まえ、効果的な規制を行うための考慮要素を抽出できること、またこれを取り入れた自分の見解を示すことができることが必要となる。

二

統計数値およびその図表の意味するところを正確に読み取る理解力、その理解に基づいて自分の考えを展開できる論理的な思考力とそれを文章にまとめる表現力を評価する。

具体的には以下の２点を評価のポイントとする。

１）1983 年から 2018 年までの日本人の欠かせないコミュニケーション行動において、どのような行動がより重視されるのか、大きく変化したものと変化していないものは何か、また、年齢による差異の特徴は何かを正しく読み取り、特徴をまとめることができているか。

２）こうしたコミュニケーション行動の変化の特徴がもたらす問題にはどのようなものが考えられるか、図表に表されたデータと自身の社会問題に関する知識に基づいて、的確な問題を考え、解決の方向性を論理的に導き出すことができるか。

三

問一

問一では問題文を正しく理解し、筒井淳也氏が提起する「なぜ社会は複雑になったのか」を本文中で使用されている用語で説明できるかを求めており、受験生の読解力と記述力を問うている。

本文では、前章までで「なぜ自分たちで作り上げた社会のことが私たち自身でもよくわからないのか」という問いを立てて、三つの答え（社会の各部門が専門化していること、無数の専門的なシステムが絡み合っていること、社会の中身が絶えず変化していること）を出したことを述べている。その上で、現代社会においては、社会全体の「規模」と「厚み」がかつてないほど大きなものになっていることを指摘している。本文では具体的にメディアの役割についても述べられており、これらの点を記述できているかがポイントである。

問二

問二では傍線部で示された「経路依存性」に関する指摘をもとにして、受験生の課題発見力、情報収集力、記述力、想像力、思考力を問うた。

本学部の教育理念には、「生涯にわたる人間発達を多様に実現しうる社会（福祉社会）を、個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政などが協働して築くため…」の人材育成が掲げられており、アドミッションポリシーも同様である。そのため、受験生には日ごろから日本社会で発生している社会問題やその解決策に目を向けられているのかが問われている。問二では「以前に作られた制度が理不尽なかたちでその後の時代の人々の生活に影響している」具体的な事例を挙げて、適切な改善方法（解決策）を示すことができているかが評価のポイントとなる。